

道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル

創る

Vol. 10

2019.3

その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.

contents

画像：朱鞠内湖に生息するイトウ
提供：足立 聡

01 第10回 キーパーソンに聞く

—第9回 北海道創生協議会 講演より—

- 01 株式会社リレイション 代表取締役 祁答院 弘智 氏
- 04 株式会社Zooops Japan代表取締役 渡部 佳朗 氏

07 地域が動く・プロジェクト最前線

- 07 ① 幌加内町
幻の魚と共存した地域活性化の取組
- 11 ② 中頓別町
町内で生産された牛乳を飲みたい
- 13 ③ 天塩町
天塩町と稚内市を結ぶライドシェア
- 15 ④ 石狩振興局
「未来ステージ」-その先の道は、ISHIKARI-

17 地域を創る人

地域で御活躍されているみなさんを
全道14振興局ごとに紹介するコーナー

- 17 上川編 江口 尚文 氏
地域の魅力再発見！
旭川ラーメンでまちを元気に！
- 18 空知編 石井 翔馬 氏・高橋 毅 氏
若者が夢にチャレンジできるまちを目指して

キーパーソンに聞く

小さな成功体験の積み重ねがまちをつくる

株式会社リレイション 代表取締役 祁答院 弘智氏

けどういん ひろとも

■ RELATION (人をつなげる)

当社の社名でもあるRELATION（リレイション）とは「関係性」を意味します。10年以上前から私は「人をつなげる仕事」がビジネスになる」と思っていたことから、起業する際の社名としました。当社のビジョンは「競争から共創へ」、ミッションは「未来を共に創る人を、地域と共に育む」ことです。個々の持つ可能性と地域リソースをマッチングし、既存の価値に当社の発想を加えることで、次の時代に受け継ぐ新しい価値や仕組み・サービスの創造を目指しています。



大学卒業後、不動産鑑定士事務所勤務などを経て、2008年に株式会社リレイションを設立。2015年より徳島県神山町においてサテライトオフィス誘致事業を行っているNPO法人グリーンバレーの理事に就任。2015年度から2017年度まで浦幌町地方創生アドバイザーに就任。

RELATIONの4つの事業

- 地域で人の可能性をいかす「地域人材育成事業」
- 地域と人の関係性をデザインし、新しい動きを作る「地域マネジメント事業」
- 地域と人をつなぎ、新たな学び・発見・気づきをもたらす「地域観光事業」
- 地域と人の、今ある魅力を発信する

平成30年11月5日に開催された、第9回北海道創生協議会において、ゲストスピーカーとして登壇された、株式会社リレイション代表取締役 祁答院 弘智氏と株式会社Zoops Japan代表取締役 渡部 佳朗氏のお二人の講演内容を中心に、道内での取組・事例などを紹介します。

■ 北海道創生協議会とは

北海道の創生・人口減少克服に向けた「北海道人口ビジョン」や「北海道創生総合戦略」の策定及び策定後の施策の推進・検証のため、平成27年5月に設置された協議会。「産学官金労言」と幅広い分野の関係団体などで構成されている。

■ 第9回北海道創生協議会

■ 開催日時

平成30年11月5日

■ ゲストスピーカー

○ 株式会社リレイション

代表取締役 祁答院 弘智氏

○ 株式会社Zoops Japan

代表取締役 渡部 佳朗氏



▲ 第9回北海道創生協議会の様子

■ 神山プロジェクトへの参戦

北海道内で活動する前に、徳島県の神山町で12年間ほど活動をしていました。御存知の方も多いと思いますが、「2040年には半数の自治体が消滅する可能性がある」という衝撃的な予測が2014年に発表されました。私が活動していた神山町は消滅可能性都市ランキングワースト20位に挙げられ、高齢化率50%以上、2人に1人は65歳以上という町です。しかしながら、今はその町が新しい働き方の先進地として注目されており、その取組が、国際交流やアート活動、サテライトオフィスの誘致などを行っている「神山プロジェクト」です。このプロジェクトも一朝一夕にできたものではなく、民間主導により楽しみながら継続してやってきた結果です。地元の土建屋さんやガス屋さん、農家さんといった地域の皆さんが少人数で、PTAや商工会と掛け持ちしながら20年間続けてきました。「関わりたい人のやりたい気持ち」から始まり、現在の神山町の取組に結びついています。

の一環として開所しました。これまでサテライトオフィスは、地域にあまりお金が落ちないと言われていましたが、えんがわオフィスの誘致によって、徳島のサテライトオフィスに対するイメージが大きく変わりました。県内で18名が雇用され、そのうち6名は人口約5千人の神山町から雇用されました。まちづくりは雇用づくりであるということを感じた事例です。



▲ えんがわオフィスの外観



▲ えんがわオフィスのワーキングスペース

■ 神山塾

サテライトオフィス誘致と並行して「神山塾」という起業家や地域人材を育成する塾を、厚生労働省の制度を利用して10年近く行っています。塾では、座学やワークショップを行うほか、地域体験としてフィールドワークなどのプログラムも行っているのが特徴で、塾の期間を「ニュートラル」として捉え、地域コーディネーターとしてのスキル習得だけでなく「あり方」を学ぶカリキュラムとしています。これまでに、137名が町内で半年間研修し、約半数が神山町を中心に徳島県に移住しました。この「神山塾」は神山町の発展要因である「ヒトノミクス」の一端を担っており、20代から30代の若者を中心に全国各地から受講者が集まるなど、人材育成事業の中でも、高い地域人材定着率を実現しており、地域での起業家が多いのも特徴の一つです。

神山塾の実績

実績数	第11期実施 (2010年12月～現在)
受講者数	137名 (第10期終了時)
人材定着率 (徳島県移住者)	42% (57名)
就職率	80% (起業率20%)

■ 浦幌町との関わり

私と十勝管内の浦幌町との関係についてお話しします。浦幌町では平成19年度から「うらほろスタイルふるさとづくり計画」を策定し、小中学生を対象にした「うらほろスタイル教育プロジェクト」を行っています。子供たちが浦幌町の魅力に触れ、地域への愛着、誇りなどに気づき、地域貢献への思いやふるさとへの意識を育むように、地域で子供を育てる取組を行っており、小学校1年生から中学校3年生までの9年間、課外学習や総合学習の時間を使い、地域や学校現場、行政が一体となって活動に取り組んでいます。

しかし、町内に高校がないため、高校に進学する場合は、周辺の帯広市や池田町へ出て行かざるを得ません。せっかく子供たちに浦幌町への愛着や誇りが生まれても、町から出て行ってしまいます。また、町では、1次産業の職業は充実していませんが、そのほかの職業が見つからず、町内で働きたい意向があっても、うまくマッチングできていない状況でした。そこで、平成25年に浦幌町で働く場所の確保を目指し、将来の若者たちが起業・創業するための中核拠点を作るために、うらほろ起業創業ラボ構築事業が発足したことから、たまたま御縁があり、約4年前に浦幌町の担当者が四国の神山町まで来られて、私に声がかかりました。

浦幌町での協働事業を行うに当たり、気をつけたことはやはりRELATION（人との関係性）です。神山町でも浦幌町でも、サテライトオフィスの立ち上げに携わりましたが、それが目的ではなく、結果として、サテライトオフィスにつながっただけです。

私が神山町で経験した、10年間のプロセスを振り返ると、インターネット環境を整備するとか、サテライトオフィスを建設するといった「そこに何があるか」が重要なのではなく、町の主体性や自主性、「そこにどんな人が集まるか」で勝負が決まると分かっていました。そこで、まずは地域の皆さんとの御縁をつくっていきました。

■ Learning Journey in URAHORO

具体的な取組としては、平成27年に Learning Journey（ラーニングジャーニー）という地域滞在型研修を行い、翌年には、人が交流する拠点として、廃校になった旧常室（とこむろ）小学校を再活用したTOKOMURO Lab（とこむろラボ・事業創造拠点）を開設しました。

ラーニングジャーニーとは「旅をするように、学ぶ」をコンセプトに、若者や地域への移住希望者などをターゲットとした地域滞在・研修ツアーです。地域の第一次産業やコミュニティ、その地域で暮らし働く人々から学びながら、新しい働き方や暮らし方のきっかけとなる機会・体験を提供しました。



▲ Learning Journey in URAHOROの様子

■ TOKOMURO Lab

TOKOMURO Labは、廃校になった遊休施設を、新しい働き方の実験場としてサテライトオフィス、コワーキングスペース、カフェ、イベントスペースなどに活用する実証実験型のプロジェクトです。教育の象徴である小学校から新たな地域文化を生み出し、未来の仕事創造の中心的な役割を持つ場所にするべく、現在も様々な取組を進行しています。これまでの2年間で、サテライトオフィスとして利用した企業・個人事業主は延べ35名、視察・研修を含めた利用者は580名に上り、大手企業ではソニー生命保険(株)や日本航空(株)の社員などが利用しています。

また、このラボの管理運営会社とし

て当社が大事にしているのは、何をを行うかよりも、なぜやっていくのか、誰がやっていくのかということであり、「学びの拠点」、「仕事の拠点」、「暮らしの拠点」として、何を作るのかというよりも、どんな人が集まるのかということに焦点を当てながら取組を進めています。

その結果、浦幌町地域おこし協力隊の方がラボ内でカフェをオープンしたほか、東京の企業人と浦幌町の林業会社が協働して、木材加工デザイン会社を設立し、ラボ内に工場兼事務所を開きました。

◀ TOKOMURO Cafeの様子



TOKOMURO Labの外観 ▶

地域プロジェクトで大切にしていること

- ① 「何をするのか」ではなく、「なぜやるのか」
- ② 「問題解決」ではなく、「課題発見」
- ③ 「成功モデル」ではなく、「成功プロセス」に学ぶこと
- ④ 「できたらいいな(want)」ではなく、「やらなければならない(must)」の見極め
- ⑤ 地域住民との「合意形成」ではなく、「小さな成功体験(共体験)」を積み重ねること

■ 大切にしていること

当社が地域プロジェクトで大切にしている5つの項目のうち、最も気をつけているのが、「なぜやるのか」、「やらなければならないこととは何か」ということです。そして、皆が納得する「合意形成」ではなく、4人、5人から始まった小さな成功体験を積み重ねることを大切にしています。現在、浦幌町のプロジェクトに3年間携わっています。5人くらいの仲間と一緒に主体的に動いていけば、町の人たちを巻き込んで地域づくりができるのではないかと考え、私も神山町での経験から学んだことを、浦幌町で実践しているところです。